

1人1台端末の活用による実践事例 (持ち帰り時の授業保障)

学校名	岡山南支援学校	実践者名	櫻田 隆志
実践場面 (教科)	①音楽 ②課題別学習(体育) ③学活		
単元・題材名	①(音楽)「言葉のリズム打ち」 ②(課題別学習)「タオル体操」 ③(学活)「リクエスト給食のメニューを決めよう」		
学習目標・ねらい	(音楽) 簡単なリズムを聴いて、手拍子をしたり、曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることができる。 (課題) 示範を見ながらタオルを使った体操に取り組むことができる。 (学活) それぞれの意見を出し合い、話し合いの中でリクエスト給食のメニューを決めることができる。		
対象の児童生徒の実態	・画面を注視して、オンラインでの授業に参加することができる。 ・iPadの簡単な操作を行うことができる。 ・接続などの操作は保護者と一緒に行った。		
活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
・新型コロナウイルス対応の関係で出席停止になった生徒が端末を持ち帰り、自宅から授業に参加した。この事例では、対象となる生徒が体調不良であったものの、授業への参加が過度な負担ではないと判断したうえで、持ち帰り時の授業保障として実施している。今回は参加した授業のうちから3つの場面を取り上げる。 ・いずれも自宅でGoogleMeetを使用して、同時双方向の形式で行った。 ・GoogleClassroomで授業の案内、方法の詳細を送信した。 ・スポットでの参加ではなく、授業時間単位で参加している。			
①音楽:「言葉のリズム打ち」 いちご＝「J J J」、チョコレート＝「♪♪J J」などの言葉をリズムで捉えて手拍子を行う活動。他の生徒と合わせて手を叩いたり、生徒の前で画面越しに披露したりすることができる。			
②課題別学習:「タオル体操」 タオルを持ち示範を見ながら体を動かす活動。実際に画面を見ながらアドバイスを聞いたり、体の動かし方を見直したりして活動に取り組むことができた。			
③学活:「リクエスト給食のメニューを決めよう」 クラス単位でリクエストする給食を決める活動。選択肢となる写真やイラストを見て、自分が選んだメニューを発表したり、クラスの中で多数決を取ったりする活動に参加することができた。			
活用のポイント・改善策等			
・自宅に居ながら、普段通り集団での授業に参加することが簡単にできるということが利点であり、生徒も主体的に学習に取り組むことができていた。 ・急な欠席の対応で十分な準備ができなかったことから、詳しい接続の方法や使用方法を簡単にまとめたものを家庭に配付したり、事前に疑問を電話で受け付けたりしながら取り組んだ。 ・生徒が一人でも自宅である程度活用できるように、iPadの操作について日ごろから慣れることができるように様々な場面で使用しておく必要がある。 ・今後はGoogleカレンダーを併用しての活用をすることで、よりスムーズに連絡や参加ができるのではないかと考える。 ・今回は行わなかったが、国語や数学など教科によっては授業用プリントをオンライン上で配付し、Goodnotesを併用してプリント学習に取り組む時間を確保するなどしていくことで、オンラインでの学習の幅が広がるのではないかと考える。			